

専門家に聞く

園芸ワンポイント

指導
澤地 家治
先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)

誰にもできる ヒヤシンスの水耕栽培

球根の水栽培は肥料もいらず、土も使わず、簡単に室内の机の上で楽しめる花づくりです。

■容器

ヒヤシンスグラス、または水耕用の押さえのある透明の鉢で、根の伸び具合がわかるもの、開花したときに倒れにくいものが無難です。

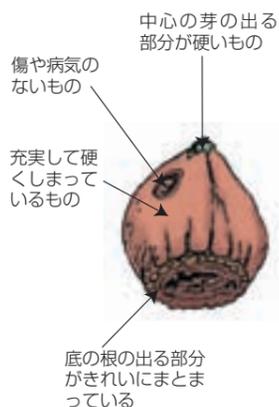
■開始時期

気温20℃、水温15℃くらいで、東京付近では10月下旬～11月頃がよく、12月に入ると気温が低いため、発根成績が悪くなります。



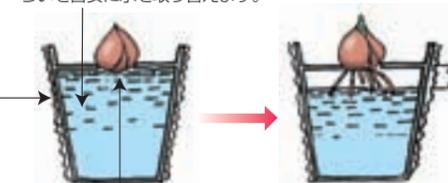
栽培方法

●球根のえらび方



根が出る部分は黒紙・黒布・アルミ箔などで容器を覆い、光が入らないようにするか、暖房がない暗いところに保管して発根を促すことが一般的です。しかし元来ヒヤシンスの根は長く成長するので、あまり早く発根させると、透明の容器の底で根がとぐろを巻いて鑑賞上おもしろくないので、むしろそのまま机の上か窓際に置いて根の伸長を抑えたほうが美しくなります。

最初のうち(温度が高い頃)は水が濁るので、1週間に1度くらいを目安に水を取り替えます。

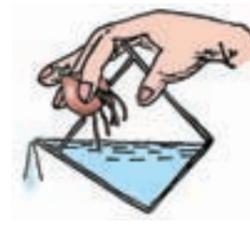


根が5～6cmに伸びたら、水位を1～2cm下げます。

根が出るまで球根の底が水面に接しているようにします。

陽のあたる場所に置き、芽をしっかりと育てます。

芽が出て伸び始め、開花するのは2～3月始め頃になります。



温度が下がると水は濁らなくなりますが、10日に1回程度水を補給します。

球根を乗せたまま根を痛めないように容器を傾け、静かに水を取り替えます。

ご意見をお寄せください

●「みどりとひと」は右綴じ? 左綴じ? ご意見をお寄せください。

「みどりの壁新聞」として昭和48年に創刊された「みどりとひと」は、おかげさまで34年目を迎えました。この間、「新聞」としての体裁を引継いで右綴じを続けてまいりましたが、町会の回覧板の綴じ方に合わせ、中央部に綴じ代を加えた左綴じにしてはどうかの声を寄せいただいております。一方で、ご愛読いただいている方々の中には右綴じのファイリングを続けてくださ

ている方もおられます。そこで、縦書きと横書きを併用した「みどりとひと」の右綴じを続けるか、横書きに統一した左綴じに変えるかについて、下記連絡先へご意見をお寄せください。

みどりの計画係
(TEL: 3312-2111 FAX: 5307-0697)

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティア杉並と協働で編集しています。

- 秋の樹木といえば、色づき始めた葉に加え、色とりどりの小さな実。季節の節目とともに、生命の連鎖も感じるこの頃です。(羽)
- 秋は紅葉の季節になります。人生に例えれば、林住期というのでしょうか。(中)
- 今年の夏はほんとうに暑かったですね。あまりの暑さに木の実の出来が心配ですが、豊作でありますように。(山)
- 企業創業者と労働組合により創られ、地域住民に開かれた広場は、今日改めてその視点に注目すべきみどりの場です。(井)
- 猛暑の中の取材でしたが、お手元に届く頃は秋の爽やかな季節。(茂)

みどりの新聞 みどりとひと141号 平成19年10月5日発行

編集/みどりのボランティア杉並
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



大豆インク使用。ケナフ100%紙使用。

連載

みどり再発見 区立向陽中学校の万葉植物園

杉並区立向陽中学校(下高井戸三丁目)には、創立四十周年記念事業として作られた「万葉植物園」があります。万葉集には百六十余種の植物が詠み込まれていると言われており、これらが万葉植物と言われているものです。現在と違う呼び方の植物もありますが、それらは万葉人の生活が植物と密着し、自然と共に生活をしてきた証ではないでしょうか。

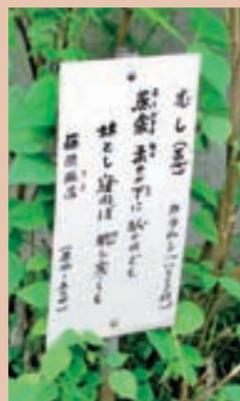
を探しているそうです。秋も本番を迎えるこれからの季節、ちょっと足を延ばして、万葉人の気分その時代へタイムスリップして万葉植物をながめて見るのも、忙しい現代人の心安らぐひとときとなるのではないのでしょうか。万葉植物園に関するお問合せはKSSCCホームページ(<http://www.ksscc.jp>)をご覧ください。

向陽中学校には万葉植物のうち約九割があり、なかには万葉植物園の先輩格にあたる国分寺万葉植物園から分けていただいたものもあるようです。全国に万葉植物園は多々ありますが、向陽中学校の万葉植物園の特徴は、植物の種類が多いというほかに、園が地域に開かれていることです。園は校庭の隅ながら、区の遊歩道に面して百メートル近い長さがあり、校内からだけでなく外からも自由に区民の方々が見られるように植物名や和歌(うた)を書いた札が立ててあります。

この万葉植物園が開園した昭和六十二年当時学校・家庭・地域の協調の時代であり、将来にわたる管理を考へて向陽中学校・同校PTA・向陽スポーツ文化クラブ(KSSCC)の協力のもと開園しました。開園して二十一年が経ちますが、万葉植物園が維持されているのは、地域住民主体のクラブであるKSSCCが日常的な手入れ、下草刈りなどを行っているからです。しかし、KSSCC会長を務める瀧水さんのお話によると、管理の人手が不足しており、お手伝いをして下さる方



▲みどりが生い茂る万葉植物園



▲札には万葉の和歌も

◀道行く人も楽しめる

天沼弁天池公園が開園してはや半年。青々と繁っていた木々も、秋の訪れを感じさせてくれる時期です。見慣れた植物が秋に見せてくれる姿は芸術的。天沼弁天池公園の近くには天沼三丁目公園、天沼西公園、そして天沼もえぎ公園があります。公園を巡って葉の色、実の形、落葉するその姿を、改めてじっくり観察し、触れてみれば、きっと新たな感動があると思います。

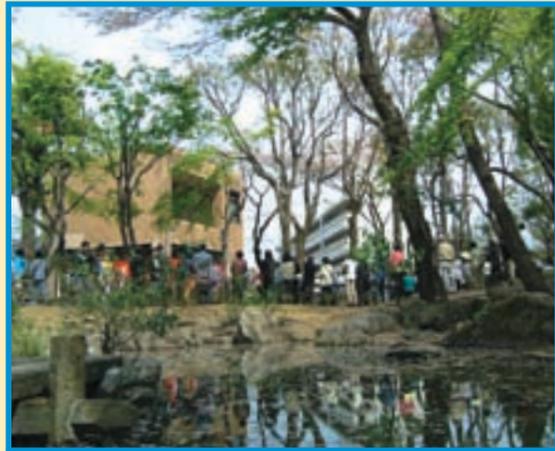
特集

公園にみる季節の移ろい (天沼弁天池公園とその周辺)



●アクセス
各公園とも荻窪駅北口から徒歩約5~10分

天沼弁天池公園



天沼弁天池公園が整備される以前、この土地には料亭があり、敷地を覆い隠すように樹木が密生していました。現在は残された約20種、百数十本の樹木が公園で葉を繁らせています。公園の設計者も「みどころ」と語る日本庭園風の池の周りには、モミジやスタジイなどが、秋の「芸術」をみせてくれます。



イロハモミジ

単にモミジというとイロハモミジを指すくらい代表的なモミジです。葉は対生(左右対称)で、5~7列に分かれています。特に7列に分かれる葉をイロハニホトと数えたのでこの名前がつけました。春にみられる小さな花もかわいらしいですが、秋の紅葉はやはり見事なものです。昼夜の気温差が大きいと綺麗な黄色や紅色に色づきます。

スタジイ

細長い卵形をしたドングリが生ります。殻斗(ドングリのお椀)は卵形にドングリを包み、ドングリが熟すと上のほうから三方向に裂けてきます。生でも食べられますが、炒めればなおおいしいです。(みどりひとNo.132「緑の歳時記」より)



杉並「知る区ロード」のオアシスのひとつである「ときのオアシス」が併設された天沼もえぎ公園は、規模は小さいながら多種の樹木や植物を見ることができます。

天沼もえぎ公園

ホトトギス



漢字で表記すると「杜鵑草(ほととぎす)」となります。花の斑点を鳥のホトトギスの胸にある斑点になぞらえてつけられました。花期は8月~10月で、ろうと状で鐘形です。ルリタテハ(蝶)の食草となります。



ヤブラン

藪に生え、ランの葉に似ていることからこの名前がついたといわれています。高さ30~50cmで、紫色の小さな花を咲かせた後には黒緑色の種子をつけます。ヤブランは「大葉麦門冬(だいやばくもんどう)」という生薬名を持っており、根の肥大した部分を解熱、鎮咳、強壮、利尿、止瀉剤として利用します。

緑の歳時記

●杉並区内でよく見かける帰化植物
ハキダメギク (掃溜菊) キク科

熱帯アメリカ原産の1年草

茎は高さ10~50cmでよく枝分かれます。葉は対生で長さ1.5~5cmの卵形です。ふちには浅い波形の鋸歯があり全体に軽毛があります。花は直径5mmほどで管状花のまわりに白い三つに切れこんだ舌状花が5個並んでいます。大正時代に東京で発見され、戦後になって急激に各地に広まりました。窒素分の多いごみ捨

て場、人家、道ばた、畑のわきによく茂っています。花期は、6~11月と長く、条件がよければ4週間ほどの短期間で発芽、開花、結実して年間数世代がくり返されています。ヨーロッパで18世紀末にパリ植物園やキュー植物園で栽培され、19世紀のはじめにキュー植物園から移出して野生化したため英名で「Kew-weed」(キューの雑草)と呼ばれています。



花の拡大図

管状花のまわりに3裂の舌状花が5個つく

管状花

舌状花

ハキダメギク

ご寄附いただきどうもありがとうございました

(平成19年4月~8月・敬省略)
蚕糸の森まつり協議会/杉並野草の会/高円寺地域集会所施設運営協議会/宮前公園「竹林の集い」参加者/みどりの基金友の会/みどりのボランティア杉並 植木応援団/杉並区内造園業者有志の会/山本瑛子・山本 宏/大田黒公園納涼の夕べ参加者/匿名希望者(4件)

地域に親しまれる企業のみどり

みどり探訪

一岩通ガーデン

杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

昭和初期、代々木上原にあった岩崎通信機株式会社が久我山に移転してから約30年後の昭和49年に岩通ガーデンは誕生しました。「隣人との友好なくしては社会関係は成立しえない」という当時の社長の考えから岩通ガーデンは一般に開放され、桜祭りやホテル祭りといった地域の人々が開催するイベントの会場となっています。

取材した日は、以前よくこの広場で遊んだという、近所に帰省中のお母さんが子どもをつれて遊びに来ていました。社員の方々は一般の方々が利用できるよう清掃を行っています。企業と区民とがみどりを介してよい関係を築く姿が、ここにはありました。



[京王井の頭線久我山駅南口から岩通通りを徒歩約7分/開放時間：原則9:00~17:00]

みどりの基金にご協力をお願いします

杉並区では、区内の貴重な樹林を買うなど、みどりの保全及び緑化の推進に活用するため、「杉並区みどりの基金」(緑化への寄付を入れるお財布)を平成14年10月に設置しました。基金は皆さまからのご寄附により支えられています。区内のみどりを残し、増やすために皆さまのご協力をお願いいたします。

